

## 第4章 施設類型ごとの管理に関する基本的な方針

1. 建物系施設の基本的な方針
2. インフラ系施設の基本的な方針

## 1 建物系施設の基本的な方針

2025（令和7）年4月1日時点で、本市が保有している519施設を施設の所管部署や施設の特徴から市民利用施設と行政施設と未利用施設に分け、さらに8つの中分類と27の小分類に分類し、施設類型別に施設の現状と課題に関する認識や管理に関する基本的な考え方を定めます。

### <基本的な方針の記載内容について>

- ・「施設内訳」の欄は、2025（令和7）年4月1日時点において市が設置（保有）や管理している施設の内容です。なお、主な施設の最新情報は本市のホームページ等で公表している「豊橋市公共施設白書」に記載しています。
  - ・施設類型別の「現状と課題」について、主に「第2章 公共施設等の現況及び将来の見通し」の「6. 現況と今後の見通しを踏まえた課題」で示した以下の視点に基づき記載しています\*。
    - 1) 公共施設等の老朽化や被災リスクへの懸念
    - 2) 人口減少、少子化・高齢化に伴う公共施設等のあり方の変化
    - 3) 厳しい財政状況
- ※特筆する事項がない施設や小規模施設については、「現状と課題」に記載がありません。
- ・「管理に関する基本的な考え方」の「施設最適化に関する考え方」については、本計画の目標年次である2055（令和37）年度までの期間に限らず、長期的な視点で考え方を記載しています。

## 第4章 施設類型ごとの管理に関する基本的な方針

### ▼建物系施設の分類

大分類	中分類 (ページ数)	小分類 (施設数)	施設 (施設数)
市民 利用 系 施設	文化・社会教育系施設 (P61)	コミュニティ関連施設 (72)	校区市民館(50)、生涯学習センター(22)
		文化施設(7)	公会堂(1)、市民文化会館(1)、アイブラザ豊橋(1)、ライフポートとよはし(コンサートホール及び中ホール)(1)、穂の国とよはし芸術劇場(1)、西川芸能練習場(1)、三の丸会館(1)
		図書館(4)	中央図書館(1)、向山図書館(1)、大清水図書館(1)、まちなか図書館(1)
		博物館等(10)	総合動植物公園(1)、自然史博物館(1)、石巻自然科学資料館(1)、美術博物館(1)、民俗資料収蔵室(1)、二川宿本陣資料館(1)、商家「駒屋」(1)、文化財センター(1)、視聴覚教育センター(1)、地下資源館(1)
		その他施設(4)	男女共同参画センター(1)、市民センター(1)、国際交流拠点(1)、青少年センター(1)
	スポーツ施設 (P67)	スポーツ施設(35)	総合体育館(1)、地区体育館(10)、武道館(1)、球場(2)、陸上競技場(1)、トレーニングセンター(1)、市民球技場(1)、高師緑地馬場(1)、庭球場(5)、屋内プール・アイスアリーナ(1)、総合スポーツ公園サッカー場(1)、運動広場等(10)
		その他施設(28)	市民クラブハウス(1)、学校体育施設クラブハウス(26)、総合運動場管理事務所(1)
	産業系施設(P69)	産業振興施設(3)	職業訓練センター(1)、勤労者会館(1)、とよはし産業人材育成センター(1)
		観光施設(18)	吉田城鉄橋(1)、吉祥山市民ふれあいの森(1)、賀茂しょうぶ園(1)、嵩山蛇穴(1)、海岸公衆便所(11)、地域振興施設(1)、瓜郷遺跡(1)、葦毛湿原(1)
		その他施設(5)	駐車場・休憩所(石巻山、多米峠、嵩山、普門寺)(4)、ボートインフォメーションセンター(1)
	学校教育系施設(P73)	学校施設(77)	小学校(52)、中学校(22)、高等学校(1)、家政高等専修学校(1)、くすのき特別支援学校(1)
		野外教育施設(3)	少年自然の家(1)、野外教育センター(1)、神田ふれあいセンター(1)
		その他施設(5)	教育会館(1)、学校給食センター(4)
	子育て支援系施設 (P76)	保育所等(22)	保育園・こども園(5)、高山学園(1)、児童クラブ(16)
		幼児・児童施設(11)	児童遊園(8)、交通児童館(1)、こども未来館(1)、ミラまちこども館(1)
		その他施設(1)	こども若者支援センター(1)
	医療・保健福祉系施設 (P79)	医療・保健施設(6)	保健所・保健センター(1)、こども発達センター(1)、休日夜間急病診療所(1)、休日夜間・障害者歯科診療所(1)、看護専門学校(1)、市民病院(1)
		衛生施設(6)	斎場(1)、霊苑(2)、墓地(3)
		地域・高齢福祉施設 (13)	地域福祉センター(3)、老人福祉センター(5)、老人憩の家(3)、高齢者活動センター(2)
		その他施設(5)	総合福祉センター(1)、更生保護会館(1)、障害者福祉会館(1)、総合老人ホームつつじ荘(1)、資源化センター余熱利用施設(1)
その他施設(P84)	その他施設(9)	競輪場(1)、市民ふれあい農園(3)、漁村コミュニティ施設(3)、南口駅前広場(1)、まちなか広場(1)	
行政 系 施設	行政系施設(P85)	庁舎施設(12)	市役所(1)、窓口センター(8)、土木維持事務所(2)、まちなか活性課事務所(1)
		消防施設(75)	消防署(所)(8)、消防団器具庫・詰所(67)
		防災施設(23)	水防倉庫(6)、防災備蓄倉庫(13)、防災器材庫(1)、津波防災センター(3)
		環境施設(16)	環境センター(3)、圧縮積替ボックス(7)、資源化センター(1)、資源リサイクルセンター(1)、プラスチックリサイクルセンター(1)、廃棄物最終処分場(1)、浸出水処理施設(2)
		市営住宅(25)	市営住宅(25)
		その他施設(10)	職員会館(1)、石巻平野町地内建物(1)、食肉衛生検査所(1)、地盤沈下観測所(4)、大清水倉庫(1)、南大清水苗圃(1)、選挙管理委員会倉庫(1)
未利用施設(P93)	未利用施設(14)	旧江比間野外活動センター(1)、旧新吉保育園(1)、旧消防団器具庫・詰所(10)、旧西口母子住宅(1)、旧豊橋球場(1)	

2025(令和7)年4月1日時点

この一覧表の分類は、今後の施設等の利用状況により変動する場合があります。

## (1) 市民利用施設

## ①文化・社会教育系施設 &lt; I. コミュニティ関連施設 &gt;

## ■施設内訳

施設名等	施設数	建物延べ床面積	土地保有面積	施設所管課
校区市民館	50	18,696.87 m <sup>2</sup>	21,406.05 m <sup>2</sup>	市民協働推進課
生涯学習センター	22	19,302.42 m <sup>2</sup>	41,926.66 m <sup>2</sup>	生涯学習課
合計	72	37,999.29 m <sup>2</sup>	63,332.71 m <sup>2</sup>	

## 現状と課題

## ○校区市民館、生涯学習センター

- ・築年数が40年を超える施設が多く、設備の更新や修繕を適宜進めているものの施設の老朽化が進んでおり、多額の修繕費用が必要となっています。災害時には避難所となる施設のため、老朽化対策だけでなく被災リスクへの備えが必要です。
- ・人口減少に伴い、利用需要の低下が見込まれるものの、校区市民館は、地域コミュニティの維持及び地域活動の拠点、生涯学習センターは、多世代が利用できる生涯学習の拠点としての機能が必要です。
- ・営利目的での使用を可能にし、新しい利用客の獲得を目指す一方で、校区市民館と生涯学習センターの複合化や集約化など施設の最適化を図り、施設保有量の削減に努める必要があります。

## 管理に関する基本的な考え方

## ■基本的な管理に関する考え方

通常の施設点検や法定点検により不良箇所が発見された場合や故障が生じると判断した時は、施設機能の維持と安全確保を第一に考え、速やかに施設の利用を停止したうえで修繕を行い、施設の健全な状態を維持します。

## ■施設最適化に関する考え方

小学校区の中に2つの公民館（生涯学習センター・校区市民館）が存在している校区があるため、小学校区内に1つの公民館を基本とするよう、最適化の検討を進めます。また、その他の施設の機能を含むことで、より効果的かつ効率的に複合化が可能な場合は、既存の建物の活用に縛られず、新たな複合化施設の建設も視野に入れ検討を行います。加えて、災害時における防災拠点として既存の施設が果たしている役割も念頭に置いたうえで、効率的な施設運用について検討します。

①文化・社会教育系施設 <Ⅱ.文化施設>

■施設内訳

施設名等	施設数	建物延べ床面積	土地保有面積	施設所管課
公会堂	1	2,951.27 m <sup>2</sup>	4,039.03 m <sup>2</sup>	文化課
市民文化会館	1	5,305.84 m <sup>2</sup>	3,243.35 m <sup>2</sup>	文化課
アイプラザ豊橋	1	13,298.84 m <sup>2</sup>	19,406.08 m <sup>2</sup>	文化課
ライフポートとよはし (コンサートホール及び中ホール)	1	4,816.16 m <sup>2</sup>	29,441.00 m <sup>2</sup>	文化課
穂の国とよはし 芸術劇場	1	8,036.59 m <sup>2</sup>	7,612.77 m <sup>2</sup>	文化課
西川芸能練習場	1	300.00 m <sup>2</sup>	1,155.55 m <sup>2</sup>	文化課
三の丸会館	1	401.11 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	文化課
合計	7	35,109.81 m <sup>2</sup>	64,897.78 m <sup>2</sup>	

現状と課題

- ・施設、設備ともに経年劣化による老朽化が進んでおり、舞台機構、電気、空調等の基幹設備については交換部品の廃番等により、応急的な修繕が困難な状況が生じています。
- ・各施設とも地域の文化や集客能力を活用し持続的な地域振興に繋がる仕組みを構築していく必要があります。また、人口減少、少子化・高齢化が進む中で、新たな利用者層獲得に向けた保全の仕方を検証していく必要があります。
- ・ホール等において、特に舞台機構等は高額になる傾向があるため、今後の利用需要を見極めながら施設最適化を検討する必要があります。

管理に関する基本的な考え方

■基本的な管理に関する考え方

- ・定期的に点検を実施し、施設利用や舞台公演に支障がないよう、不良箇所が発見された場合や故障が生じると判断した時は、修繕を行い施設の健全な状態を維持します。
- ・舞台上には照明、音響や吊り物など落下した場合に甚大な事故につながる危険をはらむ設備が多数設置されているため、使用と経年による劣化状況を把握し、適切な時期に交換、修繕を実施することで重大事故の発生を未然に防ぎます。

■施設最適化に関する考え方

- ・市民文化会館は、今後の施設再整備の際に、施設稼働率を踏まえた規模の縮小や他施設との機能集約を含めた検討を行います。
- ・ライフポートとよはしやアイプラザ豊橋は、今後の施設再整備の際に、同規模・同程度のホール機能を持つ他施設との集約化や諸室等の規模適正化の検討を行います。

## ①文化・社会教育系施設 &lt;Ⅲ. 図書館&gt;

## ■施設内訳

施設名等	施設数	建物延べ床面積	土地保有面積	施設所管課
中央図書館	1	5,777.24 m <sup>2</sup>	6,426.01 m <sup>2</sup>	図書館
向山図書館	1	766.00 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	図書館
大清水図書館	1	702.90 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	図書館
まちなか図書館	1	3,978.24 m <sup>2</sup>	1,612.68 m <sup>2</sup>	図書館
合計	4	11,224.38 m <sup>2</sup>	8,038.69 m <sup>2</sup>	

## 現状と課題

- ・中央図書館は築年数が40年を超え、老朽化による漏水等が発生しており、設備の故障のため多額の修繕費用がかかっています。災害時には津波避難ビルに指定されていることから、老朽化対策だけでなく被災リスクへの備えが必要です。

## 管理に関する基本的な考え方

## ■基本的な管理に関する考え方

- ・通常の施設点検に加え、書架等図書館固有の工作物の安全点検も併せて実施し、不良箇所が発見された場合や故障が生じると判断した時は、修繕を行い施設の健全な状態を維持します。

## ■施設最適化に関する考え方

- ・中央図書館、まちなか図書館は、図書館の形態が変化しても必要とされると考えていることから、図書館の拠点として継続する施設ではありますが、更新時には、複合化や規模適正化などを検討します。
- ・大清水図書館は、大清水まなび交流館「ミナクル」内にあり南稜生涯学習センター、大清水窓口センターとの複合施設です。今後の人口動向や社会情勢等によって、施設の適正規模などについて最適化の検討を行います。
- ・向山図書館は、市民文化会館の整備方針を踏まえ今後のあり方について対応を検討します。

①文化・社会教育系施設 <IV.博物館等>

■施設内訳

施設名等	施設数	建物延べ床面積	土地保有面積	施設所管課
総合動植物公園	1	19,539.25 m <sup>2</sup>	400,884.07 m <sup>2</sup>	動植物園
自然史博物館	1	6,983.52 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	自然史博物館
石巻自然科学資料館	1	154.02 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	自然史博物館
美術博物館	1	5,408.64 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	美術・文化財課
民俗資料収蔵室	1	1,053.10 m <sup>2</sup>	9,032.49 m <sup>2</sup>	美術・文化財課
二川宿本陣資料館	1	2,567.24 m <sup>2</sup>	4,580.66 m <sup>2</sup>	美術・文化財課
商家「駒屋」	1	677.09 m <sup>2</sup>	2,715.94 m <sup>2</sup>	美術・文化財課
文化財センター	1	1,447.58 m <sup>2</sup>	377.79 m <sup>2</sup>	美術・文化財課
視聴覚教育センター	1	3,293.27 m <sup>2</sup>	15,491.00 m <sup>2</sup>	科学教育センター
地下資源館	1	2,007.97 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	科学教育センター
合計	10	43,131.68 m <sup>2</sup>	433,081.95 m <sup>2</sup>	

現状と課題

- 総合動植物公園
  - ・西園は開園から55年経過し老朽化が進行しています。
  - ・来園者数は長いスパンで見ると増加傾向です。また、国道23号バイパスの全線開通に伴い、これまでより遠方からの来園も期待されます。
  - ・老朽化に伴い多額の修繕費用がかかっています。来園者だけでなく飼育している動物が安全かつ快適に過ごせるよう修繕する必要があります。
- 美術博物館、二川宿本陣資料館、商家「駒屋」
  - ・魅力ある展覧会や普及事業を行い、地域の美術や歴史への理解と関心を高めるとともに、来館者ニーズを把握し利用満足度の向上に努めることが必要です。また、「二川宿本陣」、旧旅籠屋「清明屋」、旧商家「駒屋」は、市の史跡や有形文化財に指定されており、適切に保存・活用することが求められます。
- 自然史博物館、視聴覚教育センター、地下資源館
  - ・施設の老朽化が進んでおり、今後の施設利用について課題があります。
  - ・科学教育施設のあり方を検討した結果、のんほいパーク内に各機能を集約する方向で調整しています。
- 石巻自然科学資料館
  - ・老朽化が進んでいますが、立地上大規模な改修が困難なため、雨漏り防止等小規模な修繕を繰り返しています。解体に向けて調整を行う必要があります。

管理に関する基本的な考え方

■基本的な管理に関する考え方

- ・通常の施設点検に加え、展示物などの点検も併せて実施し、不良箇所が発見された場合や故障、破損が生じると判断した時は、修繕を行い施設の健全な状態を維持します。

■施設最適化に関する考え方

- ・視聴覚教育センターや地下資源館は、老朽化が進んでいることから、施設の利用形態や事業展開などを確認しつつ、のんほいパーク内への集約化を行います。
- ・石巻自然科学資料館は、解体に向けた調整が整い次第施設を廃止し、必要な機能を自然史博物館へ集約します。
- ・総合動植物公園は、博物館法に基づく登録博物館としての機能と市民が集うにぎわいの場としての機能があるため、施設の改修や更新時には、必要な機能を整理して、施設の最適化を検討します。

①文化・社会教育系施設 < V. その他施設 >

■施設内訳

施設名等	施設数	建物延べ床面積	土地保有面積	施設所管課
男女共同参画センター	1	2,087.83 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	市民協働推進課
市民センター	1	1,998.35 m <sup>2</sup>	404.55 m <sup>2</sup>	市民協働推進課
国際交流拠点	1	151.97 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	多文化共生・国際課
青少年センター	1	3,870.18 m <sup>2</sup>	16,612.65 m <sup>2</sup>	生涯学習課
合計	4	8,108.33 m <sup>2</sup>	17,017.20 m <sup>2</sup>	

現状と課題

- 男女共同参画センター・市民センター
  - ・築年数が30年を超え、老朽化に伴い施設全体の修繕費用が増加傾向となっています。
  - ・人口減少等により、需要の低下が見込まれるため、機能の集約を含めた効率的な運営が必要です。
- 国際交流拠点
  - ・2021（令和3）年度 emCAMPUS EAST 2階に移転しました。現時点で老朽化や被災リスクへの懸念はありません。
  - ・日本人市民の数が減少傾向にある一方、外国人市民は年々増加しており、今後の利用人数も増えることが見込まれます。
- 青少年センター
  - ・築年数が40年を超え、老朽化が進んでおり、修繕費用がかかっています。
  - ・青少年人口が減少するなか、利用実態に合わせた機能の整理について検討が必要です。

管理に関する基本的な考え方

■基本的な管理に関する考え方

- ・施設点検は、管理者である指定管理者が日常点検を実施し、不良箇所が発見された場合は、指定管理者と連携を取りながら、修繕を行い施設の健全な状態を維持します。

■施設最適化に関する考え方

- ・男女共同参画センターは、ライフポートとよはし内にあり勤労者会館、教育会館との複合施設です。今後の人口動向や社会情勢等によって、施設の適正規模などについて最適化の検討を行います。
- ・市民センターは、施設の規模や目的、利用者数の推移を踏まえ、長期の施設利用見込みや社会情勢等を踏まえ、施設のあり方を検討します。
- ・青少年センターは、施設全体が老朽化しているため、青少年人口などの減少を勘定しながら、利用実態にあわせて必要な機能を整理し、施設のあり方を検討します。

②スポーツ系施設 < I. スポーツ施設 >

■施設内訳

施設名等	施設数	建物延べ床面積	土地保有面積	施設所管課
総合体育館	1	12,638.72 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	スポーツ課
地区体育館	10	13,596.55 m <sup>2</sup>	29,487.49 m <sup>2</sup>	スポーツ課
武道館	1	3,038.56 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	スポーツ課
球場	2	5,079.56 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	スポーツ課
陸上競技場	1	2,461.52 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	スポーツ課
トレーニングセンター	1	1,381.61 m <sup>2</sup>	12,921.72 m <sup>2</sup>	スポーツ課
市民球技場	1	692.90 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	スポーツ課
高師緑地馬場	1	449.50 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	スポーツ課
庭球場	5	274.01 m <sup>2</sup>	9,125.00 m <sup>2</sup>	スポーツ課
屋内プール・アイスアリーナ	1	11,644.33 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	スポーツ課
総合スポーツ公園 サッカー場	1	237.48 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	スポーツ課
運動広場等	10	70.30 m <sup>2</sup>	73,450.30 m <sup>2</sup>	スポーツ課
合計	35	51,565.04 m <sup>2</sup>	124,984.51 m <sup>2</sup>	

< 今後整備が予定されている施設(参考) >

多目的屋内施設	1	22,000.00 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	多目的エリア 整備室
---------	---	--------------------------	------------------	---------------

現状と課題

- ・スポーツ施設は築年数が40年を超える施設が多くあり、老朽化が進んでいます。
- ・豊橋公園内の武道館、庭球場等については、多目的屋内施設及び豊橋公園東側エリア整備・運営事業にて、再整備を実施するとともに、市内全体のスポーツ施設の再編に向けた検討を進める必要があります。
- ・物価の高騰や最低賃金の上昇等により、施設の維持費用が増加しているため、利用料金の改定など収益の確保を図る必要があります。

管理に関する基本的な考え方

■基本的な管理に関する考え方

- ・通常の施設点検のほか、法定点検により不良箇所が発見された場合は、施設の利用を停止したうえで、修繕を行い、施設の健全な状態を維持します。

■施設最適化に関する考え方

- ・子どもから高齢者まで幅広い年齢層の方が施設を利用しますが、人口減少等による施設利用の変化を把握し、施設の設置目的や必要とする機能などを整理して最適化の検討を行います。

②スポーツ系施設 < II. その他施設 >

■施設内訳

施設名等	施設数	建物延べ床面積	土地保有面積	施設所管課
市民クラブハウス	1	506.46 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	スポーツ課
学校体育施設 クラブハウス	26	692.10 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	スポーツ課
総合運動場管理 事務所	1	608.30 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	スポーツ課
合計	28	1,806.86 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	

現状と課題

- 市民クラブハウス  
施設の老朽化対策や利用促進を目的に、2030（令和12）年度に豊岡生涯学習センターと複合化する予定となっています。
- 学校体育施設クラブハウス  
施設の老朽化が進んでいることから、対策が求められます。

管理に関する基本的な考え方

- 基本的な管理に関する考え方
  - ・通常の施設点検のほか、法定点検により不良箇所が発見された場合は、施設の利用を停止したうえで修繕を行い、施設の健全な状態を維持します。
- 施設最適化に関する考え方
  - ・市民クラブハウスは、近隣にある豊岡生涯学習センターと複合化し、地域交流施設とする予定です。
  - ・学校体育施設クラブハウスは、設置当初から現在の施設利用の変化を把握し、必要とする機能や規模を整理し、施設の最適化を検討します。
  - ・総合運動場管理事務所は、多目的屋内施設及び豊橋公園東側エリア整備・運営事業にて、集約化を実施します。

## ③産業系施設 &lt; I. 産業振興施設 &gt;

## ■施設内訳

施設名等	施設数	建物延べ床面積	土地保有面積	施設所管課
職業訓練センター	1	1,307.85 m <sup>2</sup>	2,246.40 m <sup>2</sup>	商工業振興課
勤労者会館	1	1,565.00 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	商工業振興課
とよはし産業人材育成センター	1	6,118.84 m <sup>2</sup>	31,885.56 m <sup>2</sup>	商工業振興課
合計	3	8,991.69 m <sup>2</sup>	34,131.96 m <sup>2</sup>	

## 現状と課題

## ○職業訓練センター

・築年数が60年を超え、建物の老朽化が進んでいるものの、軽度の修繕等は指定管理者が自ら行い、少ない修繕費で管理を行っています。

## ○勤労者会館

・築年数が30年を超え、施設・設備の老朽化が進んでいます。

・老朽化に伴い、勤労者会館があるライフポートとよはし全体の修繕費用が増加傾向となっています。

## ○とよはし産業人材育成センター

・土地、建物の寄贈により2022（令和4）年度に開設した施設で、1988（昭和63）年建設から35年以上が経過し老朽化が進んでいます。

・労働安全衛生法に関する講座の会場や、屋内ドローン飛行場として需要が高まっています。当面の需要に対応するため施設の適正な維持管理が必要です。

・利用者の増加に伴い、使用料による歳入も増加していますが、施設の老朽化による修繕費や、利用増に伴う光熱水費などの維持管理コストも増加していることから、サービス向上と管理運営コストの縮減を図るため、指定管理を含めた維持管理手法の検討が必要です。

## 管理に関する基本的な考え方

## ■基本的な管理に関する考え方

・通常の施設点検や法定点検により不良箇所が発見された場合、または故障が生じると判断された場合は、施設機能の維持と利用者の安全確保を第一に考え、速やかに施設の利用を停止したうえで修繕を行い、施設の健全な状態を維持します。

## ■施設最適化に関する考え方

・職業訓練センターは、老朽化が著しいことを踏まえ、施設最適化を検討します。

・勤労者会館は、ライフポートとよはし内にあり教育会館、男女共同参画センターとの複合施設です。今後の人口動向や社会情勢等によって、施設の適正規模などについて最適化の検討を行います。

・とよはし産業人材育成センターは、長期の施設利用見込み、社会情勢等を踏まえ、施設最適化の検討を行います。

③産業系施設 < II. 観光施設 >

■施設内訳

施設名等	施設数	建物延べ床面積	土地保有面積	施設所管課
吉田城 鉄 櫓 <small>くろがねやぐら</small>	1	257.20 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	観光プロモーション課
吉祥山市民 ふれあいの森	1	98.06 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	観光プロモーション課
賀茂しょうぶ園	1	75.06 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	観光プロモーション課
嵩山蛇穴	1	8.54 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	観光プロモーション課
海岸公衆便所	11	129.08 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	観光プロモーション課
地域振興施設	1	1,843.20 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	農業企画課
瓜郷遺跡	1	29.28 m <sup>2</sup>	918.00 m <sup>2</sup>	美術・文化財課
葦毛湿原	1	229.46 m <sup>2</sup>	59,726.81 m <sup>2</sup>	美術・文化財課
合計	18	2,669.88 m <sup>2</sup>	60,644.81 m <sup>2</sup>	

現状と課題

- 賀茂しょうぶ園休憩所、公衆便所
  - ・老朽化が進んでおり、修繕費や維持管理費用が増加しているため、施設の存続・除却や維持管理手法の検討が必要です。
- 地域振興施設
  - ・「防災道の駅」に指定され災害時の拠点となる施設であるため、老朽化対策だけでなく被災リスクに備えた機能強化が求められます。
  - ・国道23号バイパスの全線開通を受けて来場者数は増加傾向となっています。
- 瓜郷遺跡
  - ・瓜郷遺跡は、随時、修繕を進めています。建物の内部公開を行っていないため、被災リスクへの懸念は少ない施設です。
  - ・建替や大規模な改修の際には寄付を募るなど、厳しい財政状況に応じた柔軟な対応を検討する必要があります。

管理に関する基本的な考え方

■基本的な管理に関する考え方

- ・通常の施設点検や法定点検により不良箇所が発見された場合や故障が生じると判断した時は、利用者の安全確保を第一に考え、速やかに修繕を行い、施設の健全な状態を維持します。
- ・史跡については、愛知県文化財保護指導委員による指定文化財の定期的な点検が行われています。不良箇所が発見された場合は、県や国の指示に従い修理等を行います。

■施設最適化に関する考え方

- ・長期の施設利用見込み、社会情勢等を踏まえ、施設最適化の検討を行います。

③産業系施設 <Ⅲ.その他施設>

■施設内訳

施設名等	施設数	建物延べ床面積	土地保有面積	施設所管課
駐車場・休憩所 (石巻山、多米峠、 嵩山、普門寺)	4	75.64 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	観光プロモーション課
ポートインフォメーションセンター	1	1,440.95 m <sup>2</sup>	2,657.31 m <sup>2</sup>	みなと振興課
合計	5	1,516.59 m <sup>2</sup>	2,657.31 m <sup>2</sup>	

現状と課題

- 駐車場・休憩所
  - ・石巻山、多米の休憩所の観光便所は老朽化が進み、給水、排水ともに不具合が多く生じています。
  - ・老朽化が進んでおり、修繕費や維持管理費用が増加しているため、施設の存続・除却や維持管理手法の検討が必要です。
- ポートインフォメーションセンター
  - ・災害時の拠点には指定されていないものの、2005（平成17）年に開館して20年が経つ施設で海が近く、塩害の懸念もあるため、来館者の安全に配慮した老朽化対策や維持管理が必要です。

管理に関する基本的な考え方

- 基本的な管理に関する考え方
  - ・通常の施設点検や法定点検により不良箇所が発見された場合や故障が生じると判断した時は、利用者の安全確保を第一に考え、速やかに修繕を行い、施設の健全な状態を維持します。
- 施設最適化に関する考え方
  - ・ポートインフォメーションセンターは、学校野外活動の将来展望、児童数の予測及び港で行う各種イベントの市民ニーズに基づき、長期の施設利用見込みや社会情勢等を踏まえ、施設の複合化などを検討していきます。
  - ・休憩所は、利用見込みや社会情勢等を踏まえ、施設の存続・除却や維持管理手法について検討していきます。

④学校教育系施設 < I. 学校施設 >

■施設内訳

施設名等	施設数	建物延べ床面積	土地保有面積	施設所管課
小学校	52	289,211.16 m <sup>2</sup>	842,554.90 m <sup>2</sup>	教育政策課
中学校	22	173,483.61 m <sup>2</sup>	461,630.04 m <sup>2</sup>	教育政策課
高等学校	1	6,445.64 m <sup>2</sup>	6,654.00 m <sup>2</sup>	教育政策課
家政高等専修学校	1	3,532.92 m <sup>2</sup>	6,107.00 m <sup>2</sup>	教育政策課
くすのき特別支援学校	1	10,487.50 m <sup>2</sup>	13,253.25 m <sup>2</sup>	教育政策課
合計	77	483,160.83 m <sup>2</sup>	1,330,199.19 m <sup>2</sup>	

現状と課題

- ・学校施設のうち7割超が築40年を超えており、施設の老朽化が進んでいます。今後、ますます老朽化が進んでいく中で、施設の改修や設備の更新等の対応が必要になります。
- ・児童生徒の減少に伴い、子どもたちの学習環境として望ましい形かつ安全・安心な学校施設を整備していく必要があります。学校再編による校舎等の新設・統合を選択する場合には、児童生徒や保護者、地域住民等の学校関係者だけでなく、避難所等、防災機能にも与える影響が大きいことから、地域との合意形成を丁寧に進める必要があります。
- ・建設後60年を経過した建物も10%以上あり、改修に係る費用のみでなく、建替に係る費用が大きく発生する可能性があります。

管理に関する基本的な考え方

■基本的な管理に関する考え方

- ・学校での日常点検や専門家による法定点検を実施し、不良箇所や危険個所が発見された場合や危険が生じると判断した時は、児童や生徒等の安全確保を最優先として対応を行います。

■施設最適化に関する考え方

- ・良好な学習環境、児童や生徒等の安全の確保を第一に、少子化に対応した適正な学校規模、学校配置に向けた話し合いを進めます。
- ・地域の活動拠点や災害時における防災拠点として学校が果たしている役割を念頭に置いたうえで、地域の実情に合わせ、他の公共施設との複合化を含めた効率的な施設運用について検討します。

## ④学校教育系施設 &lt;Ⅱ. 野外教育施設&gt;

## ■施設内訳

施設名等	施設数	建物延べ床面積	土地保有面積	施設所管課
少年自然の家	1	1,893.81 m <sup>2</sup>	38,611.00 m <sup>2</sup>	生涯学習課
野外教育センター	1	2,274.01 m <sup>2</sup>	130,012.34 m <sup>2</sup>	生涯学習課
神田ふれあいセンター	1	9.90 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	生涯学習課
合計	3	4,177.72 m <sup>2</sup>	168,623.34 m <sup>2</sup>	

## 現状と課題

## ○少年自然の家、野外教育センター

- ・老朽化が進んでいますが、児童が多く使用する施設であるため、必要となる修繕は早急に対応し安全確保に努めていく必要があります。
- ・児童の減少等を踏まえ、集約化や規模適正化の検討を行う必要があります。

## ○神田ふれあいセンター

- ・老朽化が進んでおり、安全面に考慮して運営を続ける必要があります。
- ・設楽ダムの建設や、山村都市交流拠点施設の建設に伴い、廃止等の検討を進める必要があります。

## 管理に関する基本的な考え方

## ■基本的な管理に関する考え方

- ・通常の施設点検や法定点検により不良箇所が発見された場合や故障が生じると判断した時は、多くの児童や生徒が利用する施設であることから、安全確保を第一に考え、速やかに修繕を行い、施設の健全な状態を維持します。

## ■施設最適化に関する考え方

- ・学校野外教育活動の将来展望、長期の利用見込み、社会情勢等を踏まえ、施設の最適化を検討します。

## ④学校教育系施設 &lt;Ⅲ.その他施設&gt;

## ■施設内訳

施設名等	施設数	建物延べ床面積	土地保有面積	施設所管課
教育会館	1	2,577.96 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	学校教育課
学校給食センター	4	15,483.24 m <sup>2</sup>	31,343.87 m <sup>2</sup>	保健給食課
合計	5	18,061.20 m <sup>2</sup>	31,343.87 m <sup>2</sup>	

## 現状と課題

## ○教育会館

- ・築年数が30年を超え、施設・設備の老朽化が進んでいます。
- ・老朽化に伴い、教育会館があるライフポートとよはし全体の修繕費用が増加傾向となっています。

## ○学校給食センター

- ・児童及び生徒数の減少により、1日あたりの食数も年々減少しています。4センター全体では、施設・設備の給食調理能力に余剰が発生しています。
- ・東部学校給食センターは老朽化が進んでおり、建物の更新時期を迎えますが、多額の費用がかかります。調理能力に余剰がある現状を鑑み、他の3センターへの集約化を検討する必要があります。

## 管理に関する基本的な考え方

## ■基本的な管理に関する考え方

- ・通常の施設点検や法定点検により不良箇所が発見された場合や故障が生じると判断した時は、施設機能の維持と安全確保を第一に考え、速やかに施設の修繕を行い、施設の健全な状態を維持します。特に学校給食センターは子どもたちに安全・安心な給食を提供するため、日常的に職員による目視点検及びメンテナンスを行うとともに計画的に修繕や更新を行います。

## ■施設最適化に関する考え方

- ・教育会館は、ライフポートとよはし内にあり勤労者会館、男女共同参画センターとの複合施設です。今後の人口動向や社会情勢等によって、施設の適正規模などについて最適化の検討を行います。
- ・学校給食センターは、児童及び生徒数の推計に基づく食数の変動をもとに、最適化を検討します。

⑤子育て支援系施設 < I. 保育所等 >

■施設内訳

施設名等	施設数	建物延べ床面積	土地保有面積	施設所管課
保育園、こども園	5	5,312.52 m <sup>2</sup>	13,058.19 m <sup>2</sup>	保育課
高山学園	1	1,035.13 m <sup>2</sup>	4,905.69 m <sup>2</sup>	保育課
児童クラブ	16	1,600.07 m <sup>2</sup>	468.37 m <sup>2</sup>	地域教育推進室
合計	22	7,947.72 m <sup>2</sup>	18,432.25 m <sup>2</sup>	

現状と課題

- 津田保育園、牛川東保育園
  - ・老朽化が進んでおり、多額の修繕費用がかかっています。
  - ・児童数の減少見込みから公立施設としての役割を視野に入れ、長期の施設利用見込み、社会情勢等を踏まえ、施設の最適化を検討する必要があります。
- 児童クラブ
  - ・児童数の減少や施設保全に係る費用等の増加を見据え、小学校の空き教室などを含めた既存施設を活用した運営を検討する必要があります。

管理に関する基本的な考え方

- 基本的な管理に関する考え方
  - ・通常の施設点検に加え、トイレ、水道、ロッカーなど児童が頻繁に利用する箇所は注意して日常点検を実施し、不良箇所が発見された場合や故障、破損が生じると判断した時は、修繕を行い施設の健全な状態を維持します。
- 施設最適化に関する考え方
  - ・将来展望、児童数の予測に基づき、公立施設としての役割を視野に入れ、長期の施設利用見込み、社会情勢等を踏まえ、施設の最適化を検討します。
  - ・公営児童クラブについては、小学校区単位で運営しているため、小学校の余裕教室の活用を図りながら、児童クラブ専用室についてはあり方を検討します。

⑤子育て支援系施設 <Ⅱ. 幼児・児童施設>

■施設内訳

施設名等	施設数	建物延べ床面積	土地保有面積	施設所管課
児童遊園※	8	13.00 m <sup>2</sup>	1,308.36 m <sup>2</sup>	子育て支援課
交通児童館	1	948.61 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	こども未来館
こども未来館	1	7,214.72 m <sup>2</sup>	14,269.38 m <sup>2</sup>	こども未来館
ミラまちこども館	1	176.00 m <sup>2</sup>	563.36 m <sup>2</sup>	こども未来館
合計	11	8,352.33 m <sup>2</sup>	16,141.10 m <sup>2</sup>	

※児童遊園のうち、6施設は借用

現状と課題

○児童遊園

・法定点検の結果等を参考に修繕を実施していますが、一部の遊具等の老朽化に対応するため、計画的な更新が必要です。

○交通児童館

・1993（平成5）年の全面リニューアルから30年を経過しており、老朽化が進んでいます。

・老朽化に伴い、修繕に係る費用が大きくなっていくことが予想されます。利用者の安全確保を第一に、緊急性の高い箇所から優先的に修繕を行っていきます。

○こども未来館

・空調設備等の老朽化に対応するため計画的な修繕が必要です。

○ミラまちこども館

・2020（令和2）年竣工のため、老朽化等の問題は現在のところありません。

管理に関する基本的な考え方

■基本的な管理に関する考え方

・施設点検は、管理者である指定管理者が日常点検を実施し、不良箇所が発見された場合は、指定管理者と連携を取りながら修繕を行い、施設の健全な状態を維持します。

・通常の施設点検を実施し、不良箇所が発見された場合は、修繕を行い、施設の健全な状態を維持します。

■施設最適化に関する考え方

・今後の人口動向や社会情勢等によって、施設の複合化など最適化の検討を行います。

⑤子育て支援系施設 <Ⅲ.その他施設>

■施設内訳

施設名等	施設数	建物延べ床面積	土地保有面積	施設所管課
こども若者支援センター	1	4,265.71 m <sup>2</sup>	－ m <sup>2</sup>	こども若者支援センター
合計	1	4,265.71 m <sup>2</sup>	－ m <sup>2</sup>	

現状と課題

- ・1982（昭和57）年建築で施設及び設備共に老朽化が進んでいます。
- ・児童相談件数の増加により、利用者は増えています。
- ・施設最適化においては、複合化等によるスケールメリットを最大限に生かす工夫が必要です。

管理に関する基本的な考え方

■基本的な管理に関する考え方

- ・施設点検は、管理者が日常点検を実施し、不良箇所が発見された場合は、修繕を行い施設の健全な状態を維持します。

■施設最適化に関する考え方

- ・施設の再整備時に規模適正化などの最適化を検討します。

⑥医療・保健福祉系施設 < I.医療・保健施設 >

■施設内訳

施設名等	施設数	建物延べ床面積	土地保有面積	施設所管課
保健所・保健センター	1	7,681.40 m <sup>2</sup>	27,983.14 m <sup>2</sup>	保健医療企画課
こども発達センター	1	3,827.98 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	保健医療企画課
休日夜間急病診療所	1	872.46 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	保健医療企画課
休日夜間・障害者 歯科診療所	1	95.40 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	保健医療企画課
看護専門学校	1	4,374.48 m <sup>2</sup>	4,007.75 m <sup>2</sup>	保健医療企画課
市民病院	1	64,039.35 m <sup>2</sup>	92,204.52 m <sup>2</sup>	市民病院管理課
合計	6	80,891.07 m <sup>2</sup>	124,195.41 m <sup>2</sup>	

現状と課題

- 保健所・保健センター等
  - ・災害時の拠点施設であることから、被災リスクに備えた機能強化を推進する必要があります。
  - ・利用需要の変化を踏まえた市民サービスの向上を図るとともに、新型コロナウイルス感染症等の感染症発生時に適切に対応できる施設の改修も必要です。
- 看護専門学校
  - ・建設から約30年が経過しており、屋上防水や外壁塗装の劣化による躯体への浸水、屋外排水管の詰まりによる排水停止など、平時の施設運営に支障が生じています。また、教室のブラインド故障、実習室の沐浴槽や洗髪台等の不具合などにより、授業や演習にも支障が生じているため、計画的に改修を進める必要があります。
  - ・看護師養成の大学への移行や少子化・高齢化の影響等から、学生や教員の確保が厳しくなることが予想されます。他の看護師養成所の動向等を踏まえて、学校の今後のあり方を検討し、その結果に応じた適正な施設規模を維持していく必要があります。
- 市民病院
  - ・災害拠点病院として病院機能を維持するとともに、患者サービスが低減しないよう、病院財政の状況を鑑みながら計画的に施設保全に努める必要があります。
  - ・人口減少、高齢化に対応した医療提供体制について、効率的な体制を検討していく必要があります。

管理に関する基本的な考え方

- 基本的な管理に関する考え方
  - ・点検により不良箇所が発見された場合や故障が生じると判断した時は、修繕を行い施設の健全な状態を維持し、耐用年数、目視や操作等のほか保守点検業務に基づく法定点検等により更新が望ましい設備については計画的に修繕を行います。
- 施設最適化に関する考え方
  - ・今後の人口動向や社会情勢等を踏まえ、施設の適正規模などについて最適化の検討を行います。

⑥医療・保健福祉系施設 < II. 衛生施設 >

■施設内訳

施設名等	施設数	建物延べ床面積	土地保有面積	施設所管課
斎場	1	4,404.38 m <sup>2</sup>	8,535.96 m <sup>2</sup>	福祉政策課
霊苑	2	167.06 m <sup>2</sup>	100,078.38 m <sup>2</sup>	福祉政策課
墓地	3	212.61 m <sup>2</sup>	24,023.42 m <sup>2</sup>	福祉政策課
合計	6	4,784.05 m <sup>2</sup>	132,637.76 m <sup>2</sup>	

現状と課題

○斎場

- ・災害時は火葬件数の増加により通常より需要が高まる施設であるため、被災リスクに備えた日々のメンテナンスを実施しています。
- ・高齢化の進行に伴い、火葬件数は増加すると予測しており、施設としての需要はこの先も高まっていくと考えられます。
- ・斎場はPFI事業として運営しており、施設に関しては予防保全を前提として維持管理できるように設計、建設されています。引き続き予防保全の考え方を維持しながら故障や事故の未然防止に努める必要があります。

○霊苑・墓地

- ・災害時（特に地震発生時）は墓石の転倒などのリスクが伴うため、原状復帰を行うための制度を整える必要があります。
- ・高齢化に伴い墓地需要は高まると考えており、墓所の区画の再整備が必要と考えています。
- ・墓所の樹木管理や排水機能の老朽化に伴う管理費等が発生しますが、緊急度の高さを適正に判断し費用削減に努めます。

管理に関する基本的な考え方

■基本的な管理に関する考え方

- ・通常の施設点検や法定点検により不良箇所が発見された場合や故障が生じると判断した時は、利用者の安全確保を第一に考え、速やかに修繕を行い、施設の健全な状態を維持します。

■施設最適化に関する考え方

- ・今後の予測や利用状況により施設の適正規模などについて最適化を検討します。

## ⑥医療・保健福祉系施設 &lt;Ⅲ.地域・高齢福祉施設&gt;

## ■施設内訳

施設名等	施設数	建物延べ床面積	土地保有面積	施設所管課
地域福祉センター	3	5,592.59 m <sup>2</sup>	10,199.10 m <sup>2</sup>	福祉政策課
老人福祉センター	5	2,657.45 m <sup>2</sup>	3,572.02 m <sup>2</sup>	長寿介護課
老人憩の家	3	488.00 m <sup>2</sup>	3,392.51 m <sup>2</sup>	長寿介護課
高齢者活動センター	2	1,190.59 m <sup>2</sup>	904.60 m <sup>2</sup>	長寿介護課
合計	13	9,928.63 m <sup>2</sup>	18,068.23 m <sup>2</sup>	

## 現状と課題

## ○地域福祉センター

- ・災害時には福祉避難所としての役割をもつ施設であるため、老朽化対策だけでなく被災リスクに備えた機能強化が求められます。
- ・主な利用対象者である高齢世代の人口は増加傾向にあり、多様化する福祉ニーズに応えられる施設として施設の改修等が必要です。
- ・老朽化に伴い、利用需要を踏まえた上で他の福祉施設との複合化や集約化などの最適化を実施し、将来の維持・更新費用を縮減する必要があります。

## ○老人福祉センター、老人憩の家、高齢者活動センター

- ・設置から50年以上が経過する施設もあり、全ての施設において老朽化が進んでいます。指定避難所や福祉避難所となる施設もあるため、老朽化対策だけでなく被災リスクに備えた機能強化が求められます。
- ・高齢化社会が進むにつれ、高齢福祉施設を利用できる対象者は増加します。
- ・今後、施設の老朽化により多額の修繕費がかかります。同じ敷地内にある施設の複合化や稼働率の低い施設の廃止について慎重に検討し、更新費用の縮減に努める必要があります。

## 管理に関する基本的な考え方

## ■基本的な管理に関する考え方

- ・主な利用者が高齢者であることから、身体の機能低下等に配慮し、より安全性を重視した維持管理に努めていく必要があります。通常の施設点検に加え、手すりなど注意して日常点検を管理者である指定管理者が点検し、不良箇所が発見された場合は、指定管理者と連携を取りながら、修繕を行い施設の健全な状態を維持します。

## ■施設最適化に関する考え方

- ・長期の施設利用見込み、社会情勢等を踏まえ、施設の最適化を検討します。

⑥医療・保健福祉系施設 <IV.その他施設>

■施設内訳

施設名等	施設数	建物延べ床面積	土地保有面積	施設所管課
総合福祉センター	1	6,068.27 m <sup>2</sup>	4,436.51 m <sup>2</sup>	福祉政策課
更生保護会館	1	342.06 m <sup>2</sup>	268.92 m <sup>2</sup>	福祉政策課
障害者福祉会館	1	4,153.67 m <sup>2</sup>	3,139.58 m <sup>2</sup>	障害福祉課
総合老人ホーム つつじ荘	1	5,292.56 m <sup>2</sup>	15,713.44 m <sup>2</sup>	総合老人ホーム
資源化センター 余熱利用施設	1	4,396.45 m <sup>2</sup>	17,353.73 m <sup>2</sup>	健康増進課
合計	5	20,253.01 m <sup>2</sup>	40,912.18 m <sup>2</sup>	

<2025(令和7)年度中に整備された施設(参考)>

動物愛護センター	1	997.58 m <sup>2</sup>	3,674.66 m <sup>2</sup>	生活衛生課
----------	---	-----------------------	-------------------------	-------

現状と課題

- 総合福祉センター
  - ・災害時には福祉避難所としての役割をもつ施設であるため、老朽化対策だけでなく被災リスクに備えた機能強化が必要です。
  - ・主な利用対象者である高齢世代の人口は増加傾向にあり、多様化する福祉ニーズへの対応が必要です。
  - ・老朽化に伴い、利用需要を踏まえた上で他の福祉施設との複合化や集約化などの最適化を実施し、将来の維持・更新費用を縮減する必要があります。
- 更生保護会館
  - ・1966(昭和41)年建設で老朽化が進んでおり、他施設との複合化等を実施し、将来の維持・更新費用を縮減する必要があります。
- 障害者福祉会館
  - ・災害時には福祉避難所としての役割をもつ施設であるため、老朽化対策だけでなく被災リスクに備えた機能強化が必要です。
  - ・主な利用対象者である障害福祉サービスの利用者は増加傾向にあり、施設利用者の需要に合わせた管理が必要です。
  - ・老朽化に伴い、今後の利用需要、他の福祉施設やスポーツ施設の有する機能及び利便性、将来の維持・更新費用などを踏まえた施設保全について検討を行う必要があります。
- 総合老人ホームつつじ荘
  - ・1972(昭和47)年建築が1棟、1991(平成3)年建築が2棟あり老朽化が進んでいます。入所施設であり被災リスクに備えた機能強化が求められます。

○資源化センター余熱利用施設

- ・施設設備は経年により不良箇所が年々増加しており、施設機能維持のために修繕・更新の対応が必要です。

管理に関する基本的な考え方

■基本的な管理に関する考え方

- ・常の施設点検に加え、高齢者や障害者が多く利用する施設であることから手すりなど注意して日常点検を行い、不良箇所が発見された場合は、適切に修繕を行う等施設の健全な状態を維持します。

■施設最適化に関する考え方

- ・社会情勢や施設利用見込み等を踏まえ、施設の複合化や集約化を検討します。

⑦その他施設 <その他施設>

■施設内訳

施設名等	施設数	建物延べ床面積	土地保有面積	施設所管課
競輪場	1	19,091.26 m <sup>2</sup>	60,482.22 m <sup>2</sup>	競輪事務所
市民ふれあい農園	3	55.37 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	農業支援課
漁村コミュニティ施設	3	52.19 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	農業支援課
南口駅前広場	1	20.22 m <sup>2</sup>	885.00 m <sup>2</sup>	まちなか活性課、 公園緑地課
まちなか広場	1	92.43 m <sup>2</sup>	2,200.11 m <sup>2</sup>	まちなか活性課
合計	9	19,311.47 m <sup>2</sup>	63,567.33 m <sup>2</sup>	

現状と課題

○競輪場

- ・メインスタンドは雨漏りが発生するなど老朽化がみられます。
- ・競輪場への来場者数は減少傾向にあり、場内施設の利用状況・サービス需要に見合った施設にするため、施設規模の適正化や管理・運営の合理化を進めていく必要があります。
- ・場内施設の更新等の増加など維持管理に係る負担も見込まれるため、施設の計画的かつ予防的な修繕・更新、利用状況に応じたコンパクトな運営等の取り組みを推進していく必要があります。

管理に関する基本的な考え方

■基本的な管理に関する考え方

- ・通常の施設点検や法定点検により不良箇所が発見された場合や故障が生じると判断した時は、施設機能の維持と安全確保を第一に考え、速やかに施設の利用を停止したうえで修繕を行い、施設の健全な状態を維持します。

■施設最適化に関する考え方

- ・社会情勢や施設利用見込み等を踏まえ、施設の最適化を検討します。

## (2) 行政系施設

## 行政系施設 &lt; I. 庁舎施設 &gt;

## ■施設内訳

施設名等	施設数	建物延べ床面積	土地保有面積	施設所管課
市役所	1	60,220.88 m <sup>2</sup>	16,497.73 m <sup>2</sup>	財産管理課
窓口センター	8	1,206.01 m <sup>2</sup>	2,152.14 m <sup>2</sup>	市民課
土木維持事務所	2	3,375.74 m <sup>2</sup>	12,989.62 m <sup>2</sup>	道路維持課
まちなか活性課事務所	1	499.65 m <sup>2</sup>	173.05 m <sup>2</sup>	まちなか活性課
合計	12	65,302.28 m <sup>2</sup>	31,812.54 m <sup>2</sup>	

## 現状と課題

## ○市役所

- ・西館は老朽化が進んでいます。災害時の拠点となる施設であるため、老朽化対策だけでなく被災リスクに備えた機能強化が必要です。
- ・複雑・多様化する行政需要に対応し、市民サービスの向上を図る必要があります。
- ・老朽化に伴い多額の修繕費用がかかっています。今後、更新時期を迎えるため、更新による施設の最適化を検討する際は市民サービスのあり方や庁舎機能の必要性を慎重に検討するとともに、情報技術等を積極的に活用し、庁舎規模の適正化と更新費用の縮減に努める必要があります。

## ○窓口センター

- ・8カ所ある窓口センターそれぞれの状況に応じ、老朽化対策だけでなく被災リスクへの備えが必要です。
- ・人口減少の社会情勢や高齢化に基づき長期的な利用見込みを踏まえ、施設のあり方を検討する必要があります。

## ○土木維持事務所

- ・災害時に拠点となる施設であるため、発災時も使用できる機能が必要です。
- ・老朽化が進むインフラを整備する施設であるため、重要な施設です。

## 管理に関する基本的な考え方

## ■基本的な管理に関する考え方

- ・通常の施設点検や法定点検により不良箇所が発見された場合や故障が生じると判断した時は、施設機能の維持と安全確保を第一に考え、速やかに修繕を行い、施設の健全な状態を維持します。

## ■施設最適化に関する考え方

- ・社会情勢や施設利用見込み等を踏まえ、施設の最適化を検討します。

行政系施設 < II 消防施設 1 >

■施設内訳

施設名等	施設数	建物延べ床面積	土地保有面積	施設所管課
消防署(所)	8	12,229.90 m <sup>2</sup>	18,735.26 m <sup>2</sup>	消防本部総務課
合計	8	12,229.90 m <sup>2</sup>	18,735.26 m <sup>2</sup>	

現状と課題

- ・施設や設備の老朽化が進んでいます。
- ・消防の広域化に向けた連携・協力の取り組みについて、より積極的な検討を行うことが必要です。
- ・人口が減少する一方で、高齢化の進行や大規模災害の発生、新たな感染症のリスクなど、消防行政を取り巻く環境は複雑多様化しており、適切に対応するため消防施設の機能を強化する必要があります。
- ・保全工事実施後間もない施設は、修繕件数が減少するものの、保全工事時期が近い施設は多額の修繕費用がかかっています。
- ・確実な消防防災活動体制を確保するため、迅速かつ適切に修繕を行えるよう財源の確保が必要です。更新の際は、広域化の状況を踏まえ、適切な出動体制が確保できるよう、消防署(所)の配置の見直しも視野に入れるなど、施設の適正化と更新費用の縮減に努める必要があります。

管理に関する基本的な考え方

■基本的な管理に関する考え方

- ・通常の施設点検や法定点検により不良箇所が発見された場合や故障が生じると判断した時は、災害活動拠点としての消防署(所)を常に万全の機能が発揮されるよう、速やかに修繕を行い、施設の健全な状態を維持します。

■施設最適化に関する考え方

- ・幹線道路の整備状況や人口減少社会を受けたコンパクトシティ化の状況、また、消防広域連携の状況を見据え、確実な消防防災活動体制が確保されるよう、消防署(所)の配置の見直しも視野に入れ、施設の最適化を検討します。

## 行政系施設 &lt; II 消防施設 2 &gt;

## ■施設内訳

施設名等	施設数	建物延べ床面積	土地保有面積	施設所管課
消防団器具庫・詰所※	67	4,105.83 m <sup>2</sup>	8,424.54 m <sup>2</sup>	消防本部総務課
合計	67	4,105.83 m <sup>2</sup>	8,424.54 m <sup>2</sup>	

※消防団器具庫・詰所のうち、1施設は借用

## 現状と課題

- ・消防団器具庫・詰所は、地域の災害活動拠点となる施設であるため、老朽化対策は必須です。
- ・豊橋市消防団は、2024（令和6）年3月策定の「豊橋市消防団ビジョン」に基づき、持続可能な消防団組織の構築を図るため、地域の実情に応じて部（施設）を集約し、地域防災力を維持継続しています。
- ・各施設のメンテナンス等を定期的 to 実施し、修繕頻度及び修繕程度の減少に努める必要があります。
- ・将来的な維持管理の適正化を図るため、他施設等との複合化も検討する必要があります。

## 管理に関する基本的な考え方

## ■基本的な管理に関する考え方

- ・通常の施設点検や法定点検により不良箇所が発見された場合や故障が生じると判断した時は、災害活動拠点として常に万全の機能が発揮されるよう、速やかに修繕を行い、施設の健全な状態を維持します。

## ■施設最適化に関する考え方

- ・地元自治会や分団と協議し、地域の実情に応じた適正な部数への見直しを検討し、地域防災力の低下を招かぬよう適正な組織体制へと集約を図るとともに施設の最適化を検討します。

行政系施設 <Ⅲ. 防災施設>

■施設内訳

施設名等	施設数	建物延べ床面積	土地保有面積	施設所管課
水防倉庫	6	279.78 m <sup>2</sup>	1,103.65 m <sup>2</sup>	防災危機管理課
防災備蓄倉庫	13	2,565.08 m <sup>2</sup>	3,154.90 m <sup>2</sup>	防災危機管理課
防災器材庫	1	92.74 m <sup>2</sup>	203.94 m <sup>2</sup>	防災危機管理課
津波防災センター	3	1,066.26 m <sup>2</sup>	1,787.00 m <sup>2</sup>	防災危機管理課
合計	23	4,003.86 m <sup>2</sup>	6,249.49 m <sup>2</sup>	

現状と課題

- 水防倉庫
  - ・水防計画に基づき風水害による河川の氾濫等に対応する資機材を備えるための施設であり、老朽化や被災リスクに備えた機能強化が必要です。
- 防災備蓄倉庫
  - ・地域防災計画に基づき災害時に市民へ提供する物資を備蓄するための施設であり、老朽化や被災リスクに備えた機能強化が必要です。
- 防災器材庫
  - ・災害時に使用する救助資機材を備えるための施設であり、老朽化や被災リスクに備えた機能強化が必要です。
- 津波防災センター
  - ・南海トラフ地震等により発生する津波から市民の生命や身体の安全を守るための施設であるため、適切な維持管理が必要です。

管理に関する基本的な考え方

- 基本的な管理に関する考え方
  - ・通常の施設点検や法定点検により不良箇所が発見された場合や故障が生じると判断した時は、災害活動拠点として常に万全の機能が発揮されるよう、速やかに修繕を行い、施設の健全な状態を維持します。
- 施設最適化に関する考え方
  - ・施設の最適化にそぐわない施設ではありますが、防災備蓄倉庫などは避難所との複合化など施設の最適化を検討します。

行政系施設 <IV.環境施設>

■施設内訳

施設名等	施設数	建物延べ床面積	土地保有面積	施設所管課
環境センター	3	10,720.97 m <sup>2</sup>	27,219.20 m <sup>2</sup>	収集業務課
圧縮積替ボックス	7	236.59 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	収集業務課
資源化センター	1	36,278.49 m <sup>2</sup>	45,145.30 m <sup>2</sup>	資源化センター
資源リサイクルセンター	1	1,505.03 m <sup>2</sup>	4,052.00 m <sup>2</sup>	資源化センター
プラスチックリサイクルセンター	1	3,191.87 m <sup>2</sup>	5,101.39 m <sup>2</sup>	資源化センター
廃棄物最終処分場	1	605.78 m <sup>2</sup>	201,341.69 m <sup>2</sup>	埋立処理課
浸出水処理施設	2	719.39 m <sup>2</sup>	9,538.81 m <sup>2</sup>	埋立処理課
合計	16	53,258.12 m <sup>2</sup>	292,398.39 m <sup>2</sup>	

現状と課題

- 環境センター
  - ・各環境センターは築年数が30年を超え、設備等含め老朽化が進み故障や破損箇所が増えています。
- 資源化センター、資源リサイクルセンター、プラスチックリサイクルセンター
  - ・災害時における施設の停止はごみ処理が滞り、市民生活に大きく影響を及ぼす可能性が考えられます。
  - ・人口減に伴い、ごみ量は減少しているものの、市民生活の基盤を維持するために施設の運営継続が求められます。
  - ・老朽化による維持補修費の増加は避けられないため、施設規模の見直しや機能統合を検討し、更新費用や維持補修費の縮減を図る必要があります。
- 廃棄物最終処分場、浸出水処理施設
  - ・法令等に適合、かつ周辺環境に配慮した施設の維持管理が必要です。

管理に関する基本的な考え方

■基本的な管理に関する考え方

- ・通常の施設点検や法定点検により不良箇所が発見された場合や故障が生じると判断した時は、安全を第一に考え、速やかに修繕を行い、施設の健全な状態を維持します。

■施設最適化に関する考え方

- ・資源化センターの焼却炉は、田原市との広域施設として整備しています。
- ・資源リサイクルセンターとプラスチックリサイクルセンターについては、更新時期を勘案し、両施設の集約化の可能性を検討します。

## 行政系施設 &lt; V. 市営住宅 &gt;

## ■施設内訳

施設名等	施設数	建物延べ床面積	土地保有面積	施設所管課
市営住宅	25	268,769.55 m <sup>2</sup>	289,541.33 m <sup>2</sup>	住宅課
合計	25	268,769.55 m <sup>2</sup>	289,541.33 m <sup>2</sup>	

## 現状と課題

- ・公営住宅法上の法定耐用年数の半分を超えた住棟が7割あります。設備の老朽化が進み、維持管理費が増大しています。
- ・市営住宅の施策対象者は、全体としては年々減少すると推計される一方、単身高齢者世帯は増加傾向にあります。真の住宅困窮者への適切な住宅の提供と、高齢化への対応が必要です。
- ・入居率が低下傾向にあるなかで、住宅使用料全体の増加が見込めません。家賃制度の運用の見直しなど歳入の確保と共に、維持管理費の効率化が必要です。

## 管理に関する基本的な考え方

## ■基本的な管理に関する考え方

- ・施設点検は、管理者である指定管理者が日常点検を実施し、不良箇所が発見された場合や故障が生じると判断した時は、住民の安全確保を第一に考え、指定管理者と連携を取りながら、修繕を行い施設の健全な状態を維持します。

## ■施設最適化に関する考え方

- ・将来の人口、世帯動向を踏まえた管理戸数の適正化や民間賃貸住宅の活用等を検討し、施設総量の縮減を図ります。また、これらにより生じる余剰地の有効活用を検討します。

## 行政系施設 &lt;VI. その他施設&gt;

## ■施設内訳

施設名等	施設数	建物延べ床面積	土地保有面積	施設所管課
職員会館	1	1,758.10 m <sup>2</sup>	591.73 m <sup>2</sup>	財産管理課
石巻平野町地内建物	1	3,246.20 m <sup>2</sup>	21,311.00 m <sup>2</sup>	財産管理課
食肉衛生検査所	1	1,088.02 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	食肉衛生検査所
地盤沈下観測所	4	45.03 m <sup>2</sup>	79.33 m <sup>2</sup>	環境保全課
大清水倉庫	1	40.96 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	河川課
南大清水苗圃 <sup>びょうほ</sup>	1	141.00 m <sup>2</sup>	20,030.00 m <sup>2</sup>	公園緑地課
選挙管理委員会倉庫	1	77.76 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	選挙管理委員会事務局
合計	10	6,397.07 m <sup>2</sup>	42,012.06 m <sup>2</sup>	

## 現状と課題

## ○職員会館

・現在は一部を貸事務所として活用していますが、今後、施設の必要性を慎重に検討するとともに、建物の更新、譲渡等も視野に経費縮減に努める必要があります。

## ○石巻平野町地内建物

・老朽化が進んでいるため、機能廃止に向けて調整を行う必要があります。

## ○食肉衛生検査所

・海岸線に隣接する施設であるため、老朽化対策だけでなく被災リスクに備える必要があります。

・市内に唯一の施設であり、食肉流通の確保のため機能の維持が必要です。

・施設自体に大きな損傷はありませんが、多額の補修費用が発生する前に雨漏りや外壁の劣化を検査し、計画的に補修する必要があります。

## ○地盤沈下観測所

・4つの施設により、市内全体を広域的に調査していますが、地盤沈下が沈静化している現状を考慮し、施設のあり方について検討する時期となっています。今後、市民サービスのあり方や必要性を慎重に検討し、環境調査の適正化と更新費用の縮減に努める必要があります。また、土地の水準点を有しているため、施設の廃止を検討する際にはこの機能についても配慮する必要があります。

## ○南大清水苗圃

・施設の老朽化に伴い計画的な改修をする必要がある一方で、市民ニーズの変化等を踏まえ、施設規模の増減を踏まえた施設の最適化を検討する必要があります。

管理に関する基本的な考え方

■ 基本的な管理に関する考え方

- ・ 通常の施設点検や法定点検により不良箇所が発見された場合や故障が生じると判断した時は、施設機能の維持と安全確保を第一に考え、速やかに施設の利用を停止したうえで修繕を行い、施設の健全な状態を維持します。

■ 施設最適化に関する考え方

- ・ 利用見込みや社会情勢等を踏まえ、施設の最適化について検討していきます。

### (3) 未利用施設

#### 未利用施設

##### ■施設内訳

施設名等	施設数	建物延べ床面積	土地保有面積	施設所管課
旧江比間野外活動センター	1	928.33 m <sup>2</sup>	31,181.91 m <sup>2</sup>	生涯学習課
旧新吉保育園	1	515.95 m <sup>2</sup>	572.85 m <sup>2</sup>	保育課
旧消防器具庫・詰所	10	609.90 m <sup>2</sup>	238.00 m <sup>2</sup>	消防本部総務課
旧西口母子住宅※	1	399.60 m <sup>2</sup>	2,349.38 m <sup>2</sup>	住宅課
旧豊橋球場※	1	257.91 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	スポーツ課
合計	14	2,711.69 m <sup>2</sup>	34,342.14 m <sup>2</sup>	

※2025（令和7）年度に解体に着手

#### 管理に関する基本的な考え方

##### ■基本的な管理に関する考え方

・施設の機能としては廃止をしているため使用していませんが、定期的に見回りを行い施設に異常がないか確認を行います。

##### ■施設最適化に関する考え方

・施設の機能としては廃止をしている施設になるため、建物や土地について方向性が決定し次第、解体や売却などの処分をしていきます。

## 2 インフラ系施設の基本的な方針

2025（令和7年）4月1日時点で、本市が保有している都市基盤系施設を所管部署や施設の特性から6つの小分類に分類し、施設類型別に施設の現状と課題に関する認識や管理に関する基本的な考え方を定めます。

### <基本的な方針の記載内容について>

- ・「施設内訳」の欄は、2025（令和7年）4月1日時点において市が設置（保有）や管理している施設の内容です。
  - ・施設類型別の「現状と課題」について、主に「第2章 公共施設等の現況及び将来の見通し」の「6. 現況と今後の見通しを踏まえた課題」で示した以下の視点に基づき記載しています※。
    - 1) 公共施設等の老朽化や被災リスクへの懸念
    - 2) 人口減少、少子化・高齢化に伴う公共施設等のあり方の変化
    - 3) 厳しい財政状況
- ※特筆する事項がない施設や小規模施設については、「現状と課題」に記載がありません。
- ・「管理に関する基本的な考え方」の「施設最適化に関する考え方」については、本計画の目標年次である2055（令和37）年度までの期間に限らず、長期的な視点で考え方を記載しています。

### ▼インフラ系施設の分類

大分類・中分類	小分類(ページ数)	施設
都市基盤系施設	道路等(P95)	道路(トンネル含む)、二川駅南北自由連絡通路、豊橋駅東西自由連絡通路、豊橋駅東口ペDESTリアンデッキ、牛川渡船場、豊橋駅前地下道、横断歩道橋、橋りょう
	河川等(P97)	河川・排水路等、排水機場、ため池・調整池等、憩の場、海岸施設、防火水槽
	都市公園等(P99)	都市公園、遊園、ちびっこ広場、ふれあい広場、多目的広場、しょうぶ園 その他の公園、緑地等
	駐車場(P100)	自動車駐車場、自転車等駐車場
	水道施設(P101)	管路(配水管、送水管、導水管)、上下水道局庁舎、取水場、浄水場、配水場、給水所、加圧所、計測所等
	下水道施設(P102)	管きょ、処理場、ポンプ場、小規模ポンプ場、その他

2025(令和7)年4月1日時点

都市基盤系施設 < I. 道路等 >

■施設内訳

施設名等	施設数	延べ面積	施設所管課
道路(トンネル含む)	13,669	18,109,171 m <sup>2</sup>	土木管理課
二川駅南北自由連絡通路	1	537.74 m <sup>2</sup>	土木管理課
豊橋駅東西自由連絡通路	1	3,222.00 m <sup>2</sup>	土木管理課
豊橋駅東口ペDESTリアンデッキ	1	6,395.00 m <sup>2</sup>	土木管理課
牛川渡船場	1	1,465 m <sup>2</sup>	土木管理課
豊橋駅前地下道	1	2,235 m <sup>2</sup>	土木管理課
横断歩道橋	13		道路維持課
橋りょう	1,297		道路建設課

現状と課題

- 道路（トンネル含む）、二川駅南北自由連絡通路、豊橋駅東西自由連絡通路、豊橋駅東口ペDESTリアンデッキ、牛川渡船場、豊橋駅前地下道
  - ・施設の老朽化が進行しており、今後、修繕等の増加が予測されます。計画的な保全や長寿命化計画に基づく効率的な修繕の実施により施設の健全性を保つとともに、将来的な維持管理費用の縮減に努める必要があります。
  - ・人口減少や少子化・高齢化に伴い、利用者層や利用需要の変化が予想されます。関連する計画を踏まえ、利用者ニーズに合致する適切なサービス体系を模索していくことが必要です。
- 横断歩道橋
  - ・限られた予算の中で5年に1回の定期点検を確実に実施し、健全性を定期的に確認するとともに、修繕を実施していく必要があります。また、利用状況を常に把握し施設撤去等も検討していく必要があります。
- 橋りょう
  - ・2024（令和6）年度時点で、豊橋市が管理する橋りょうのうち建設後50年以上経過の橋りょうは約32%、20年後には約87%と高齢化が進んでいます。
  - ・迂回路の存在、橋りょうの損傷状況や劣化の進行性を考慮し、交通量などの利用実績、地元の利便性について調査を実施し、集約化等の検討を進めます。
  - ・損傷が軽微な段階から修繕対策を行う「予防保全型」の維持管理を行い、長寿命化と維持管理コストを縮減していきます。

管理に関する基本的な考え方

■基本的な管理に関する考え方

- ・日常パトロール、定期点検や通報により不良箇所が発見された場合や故障が生じると判断した時は、施設機能の維持と安全確保を第一に考え、速やかに修繕を行い、施設の健全な状態を維持します。

■施設最適化に関する考え方

- ・社会構造の変化や新たなニーズへ対応する取り組みを推進し、施設の保有量の適正化を図ります。
- ・点検や診断手法にICTやAIなどの情報技術を活用することで維持費の縮減を図ります。

都市基盤系施設 < II. 河川等 >

■施設内訳

施設名等	施設数	延長	施設所管課
河川・排水路等		1,298.8 km	河川課
排水機場	28		河川課
ため池・調整池等	150		河川課
憩の場	20		河川課
海岸施設		14.4 km	農業支援課
防火水槽	1,152 (40t以上 1,044 基、40t 未満 108 基)		消防本部総務課

現状と課題

- 河川・排水路等、排水機場
  - ・河川等の施設は、防災上重要であるとともに歴史の古いものが多く、その施設量も膨大です。また、高度経済成長期以降に整備された施設は老朽化が進行しています。
  - ・河川、排水路等は、適切な維持管理によって永続的に利用できる施設であることから、市民が安心できる施設管理体制が必要であり、さらに浸水被害対策等の施設整備についても検討、実施していかなければなりません。
- ため池
  - ・堤防が決壊した場合に家屋等への被害が発生する恐れのある防災重点農業用ため池に 45 カ所が指定されており、老朽化対策や地震・豪雨対策による安全性の確保が必要です。
  - ・社会情勢の変化により、農業用利用がなくなったため池もあり、洪水調節機能などの他用途への転用や廃止による安全性の確保が必要です。
- 憩の場
  - ・ほとんどの施設が設置後 30 年以上経過しており、老朽化が進んでいます。広場中心の施設で、災害時の一時避難場所としての利用が考えられます。
  - ・利用されていないと思われる施設は、施設撤去して広場のみ残すことや、廃止することも考えられます。
- 海岸施設
  - ・築造後 50 年を経過した区間もあり、老朽化が進んでいます。津波、高潮等の災害から防護するために施設機能の維持が求められます。
  - ・更新費を縮減するために、予防保全型の維持管理や長寿命化によって、維持管理コストの縮減が必要です。

○防火水槽

- ・耐震性がなく経年劣化した防火水槽は、震災発生時には亀裂等により漏水の危険性があり、消防水利の確保が困難となる可能性があります。
- ・市街地・準市街地に対する耐震性防火水槽の整備率は約56%で、さらに耐震化を進める必要があります。
- ・設置後、50年を経過した防火水槽は全体の4割となっており、配置の見直しを含め防火水槽の適正化を進める必要があります。

管理に関する基本的な考え方

■基本的な管理に関する考え方

- ・日常パトロール、定期点検や通報により不良箇所が発見された場合や故障が生じると判断した時は、施設機能の維持と安全確保を第一に考え、速やかに修繕を行い、施設の健全な状態を維持します。
- ・点検や診断手法にドローンなどを導入することで維持費の縮減を図ります。

○防火水槽

- ・経過年数や劣化状況等を把握し、適切な時期に施設の補修・更新を検討し、施設の健全な状態を維持します。
- ・定期点検を実施し、不良箇所が発見された場合は、速やかに修繕を行い、施設の健全な状態を維持します。

■施設最適化に関する考え方

- ・社会情勢等の変化に伴い必要性や機能がなくなった施設については、最適化について関係機関と調整や検討を行い、必要に応じて適切に対応していきます。

都市基盤系施設 <Ⅲ. 都市公園等>

■施設内訳

施設名等	施設数	延べ面積	施設所管課
都市公園※ <sup>1</sup>	418	3,439,732.00 m <sup>2</sup>	公園緑地課
遊園※ <sup>2</sup>	60	54,473.28 m <sup>2</sup>	公園緑地課
ちびっこ広場、ふれあい広場	37	34,746.78 m <sup>2</sup>	公園緑地課
多目的広場、しょうぶ園	2	21,901.39 m <sup>2</sup>	公園緑地課
その他の公園、緑地等	28	527,038.45 m <sup>2</sup>	公園緑地課

※1：総合動植物公園（動植物園）、向山霊苑（福祉政策課）を除く

※2：児童遊園（子育て支援課）を除く

現状と課題

- ・遊具等の対象施設約 5,000 個のうち 30%程度が補修する必要があるとあり、公園利用者に大きな事故が発生する前に、予防保全を実施することが必要です。
- ・今後、周辺人口の減少に伴い、公園利用者が減少し、その設置目的を十分果たせなくなる都市公園が発生する可能性があります。
- ・本市の都市公園は近年においても増加しており、維持管理に係る費用も増加しています。適正な維持管理が困難な都市公園の増加を抑制するとともに、維持管理費用の縮減が必要です。

管理に関する基本的な考え方

■基本的な管理に関する考え方

- ・日常点検や通報により異常や故障が発見された場合や定期点検で劣化や損傷により公園施設の機能保全や安全性確保に支障があると判断した場合は、公園施設機能の維持と安全確保を第一に考え、施設を速やかに修繕や計画的な改修・更新を行い健全な状態に維持します。
- ・公園樹の樹木診断を行い必要に応じて剪定や伐採などの危険木対策を行うほか、大木化や老木化に伴う倒木などへの対策として木の間引きなど樹木の適正管理を行い健全な状態を維持します。

■施設最適化に関する考え方

- ・施設の改修や更新時には利用者のニーズを的確に把握するよう努めます。また、保有量の適正化など最適化の検討を行います。
- ・都市景観の緑としての役割を保ちながら、地域住民の意向を踏まえて樹木の適正化（整理）を進めていきます。

都市基盤系施設 <IV. 駐車場>

■施設内訳

施設名等	施設数	延べ面積	施設所管課
自動車駐車場	3	19,894.14 m <sup>2</sup>	土木管理課
自転車等駐車場	3	11,781.73 m <sup>2</sup>	土木管理課

現状と課題

- ・施設の老朽化が進行しており、今後、修繕に係る費用の増加が見込まれます。計画的な施設の保全や長寿命化計画に基づく効率的な修繕の実施により、施設の健全性を保ちつつ、将来的な維持管理費用の縮減に努める必要があります。
- ・人口減少や少子化・高齢化に伴い、利用者層や利用需要の変化が予想されます。関連する計画を踏まえ、利用者ニーズに合致する適切なサービス体系を模索していくことが必要となります。

管理に関する基本的な考え方

■基本的な管理に関する考え方

- ・日常点検、定期点検や通報により不良箇所が発見された場合や故障が生じると判断した時は、施設機能の維持と安全確保を第一に考え、速やかに修繕を行い、施設の健全な状態を維持します。

■施設最適化に関する考え方

- ・利便性を損なわないように出来る限り既存の施設を長寿命化して使用するため、点検を行い劣化や損傷を早期発見し修繕することで維持管理費用の縮減を図ります。

## 都市基盤系施設 &lt; V. 水道施設 &gt;

## ■施設内訳

施設名等	施設数	延長	施設所管課
管路(配水管、送水管、導水管)		2,267.5 km	浄水課、水道管路課
上下水道局庁舎	1		経営課
取水場	1		浄水課
浄水場	2		浄水課
配水場	5		浄水課
給水所	9		浄水課
加圧所	7		浄水課
計測所等	23		浄水課

## 現状と課題

- ・本市の水道事業における有形固定資産償却率は、2023（令和5）年度末時点において55.43%と全国の類似団体平均52.74%を上回っており、水道施設の老朽化が進んでいます。そのため、安定給水の確保のため計画的な改良・更新が必要です。
- ・上下水道一体での耐震化を推進する必要性が国から示され、本市においても耐震化計画を策定しました。この計画に基づき、上下水道一体での耐震化を進める必要があります。
- ・給水人口や使用水量（有収水量）は減少傾向にあり、今後もその傾向は継続するものと予想されます。施設の更新にあたっては、今後の水需要に見合った施設への更新が必要です。
- ・給水人口や使用水量の減少とともに料金収入も減少傾向にある一方で、物価上昇に伴い経常費用は増加しており、施設の改良・更新や耐震化など、今後も事業運営に係る費用は増加することが予想されます。計画的かつ効率的な施設整備をはじめ、より一層の経営の効率化が必要です。

## 管理に関する基本的な考え方

## ■基本的な管理に関する考え方

- ・日常点検、定期点検や通報により不良箇所が発見された場合や故障が生じると判断した時は、施設機能の維持と安全を第一に考え、速やかに修繕を行い、施設の健全な状態を維持します。

## ■施設最適化に関する考え方

- ・人口減少等の社会情勢の変化を踏まえ、水道施設の最適化（管路のダウンサイジング等）を図り、効率的な水道システムの構築を進めることで維持管理費用の縮減を図ります。

都市基盤系施設 <VI. 下水道施設>

■施設内訳

施設名等	施設数	延長	施設所管課
管きよ		1,618.3 km	下水道整備課
処理場	16		下水道施設課
ポンプ場	16		下水道施設課
小規模ポンプ場	126		下水道施設課、 下水道整備課
その他	26		下水道施設課、 下水道整備課

現状と課題

- ・2025（令和7）年1月に埼玉県八潮市で発生した下水道管路の破損に起因すると考えられる大規模な道路陥没事故を受け、全国特別重点調査が実施されるなど、老朽化対策が課題となっています。本市の下水道事業における有形固定資産減価償却率は2023（令和5）年度末時点において48.85%と全国の類似団体平均34.87%を上回っており、下水道施設の老朽化が進んでいることから、適切な下水処理のための計画的な改築・更新を行う必要があります。
- ・上下水道一体での耐震化を推進する必要性が国から示され、本市においても耐震化計画を策定しました。この計画に基づき、上下水道一体での耐震化を進める必要があります。
- ・排水人口や使用水量（有収水量）は減少傾向にあり、今後もその傾向は継続するものと予想されます。施設の更新にあたっては、今後の水需要に見合った施設への更新が必要です。
- ・排水人口や使用水量の減少とともに使用料収入も減少傾向にある一方で、物価上昇に伴い経常費用は増加しており、施設の改築・更新や耐震化など、今後も事業運営に係る費用は増加することが予想されます。計画的かつ効率的な施設整備をはじめ、より一層の経営の効率化が必要です。

管理に関する基本的な考え方

■基本的な管理に関する考え方

- ・日常点検、定期点検や通報により不良箇所が発見された場合や故障が生じると判断した時は、施設機能の維持と安全を第一に考え、速やかに状態を把握し修繕を行い、施設の健全な状態を維持します。

■施設最適化に関する考え方

- ・人口減少等の社会情勢の変化を踏まえ、下水道施設の最適化（処理場の統廃合等）を図り、効率的な下水道システムの構築を進めることで維持管理費用の縮減を図ります。